

# 静岡県環境衛生科学研究所業務研究発表会を開催します!!

環境衛生科学研究所では、日頃の研究成果等を県民の皆様に発表するため、毎年6月の環境月間に業務研究発表会を開催しています。

本年度は、静岡県の特産品である「桜えび」の偽装品を遺伝子解析検査で見破ったことを報告するほか、環境や生活上の身近な課題を発表します。

併せて、本年12月開館予定の富士山世界遺産センター(仮称)の内山純蔵教授(現: 県文化・観光部文化局世界遺産センター整備課教授)による「富士山の形成と人類史」と題した特別講演を行います。富士山の魅力が身近に感じられるような楽しいが伺えることと思いますので、多くの方の御参加をお待ちしております。

1 開催日時 平成29年6月15日(木) 午後1時から4時45分まで

2 会場 静岡市産学交流センター(ペガサート B-nest)  
6階プレゼンテーションルーム (静岡市葵区御幸町3-21)

3 プログラム

(1) 特別講演

- ・ 富士山の形成と人類史

(2) 一般講演

- ・ これって本当に桜えび!? ~科学技術がその正体を暴く~
- ・ インフルエンザ検査最前線
- ・ 静岡県における温暖化影響 ~避けられない気候変動にどう備えるか~
- ・ 廃棄物の有効利用で塗料排水をきれいに
- ・ 静岡県内のPM2.5の現状について ~地域性とその傾向~
- ・ 静岡県内の水質環境の現状と保全への取組
- ・ ツーンとする! わさびのはなし
- ・ ジェネリック医薬品利用してますか?

※講演時間、発表内容につきましては、別添「プログラム」及び「要旨」を御覧ください。

4 参加申込み

ファックス、電話、電子メールにより、お名前、連絡先(電話番号、Eメールアドレス、勤務先名)を、下記申込み先宛てに御連絡ください。

当日の参加も可能です。

※入場料無料

5 申込み先

環境衛生科学研究所 総務企画課

(〒420-8637 静岡市葵区北安東4丁目27番2号)

電話番号: 054-245-7655

FAX番号: 054-245-7636

E-mail: kanki@pref. shizuoka. lg. jp

# 平成 29 年度静岡県環境衛生科学研究所 業務研究発表会プログラム

開催日：平成 29 年 6 月 15 日（木）

場所：静岡市産学交流センター  
プレゼンテーションルーム

No.	時間	演 題	発表者
	13:00~13:05	開会挨拶	所長 杉山 浩一
<b>特別講演</b>			
		座長 前田 有美恵（副所長）	
	13:05~13:50	富士山の形成と人類史 静岡県文化・観光部文化局（富士山世界遺産センター（仮称））	教授 内山 純蔵
<b>一般講演</b>			
		座長 神田 隆（微生物部長）	
1	13:50~14:10	これって本当に桜えび！？ ～科学技術がその正体を暴く～	主任 村田 学博
2	14:10~14:30	インフルエンザ検査最前線	主査 酒井 悠希子
		座長 平松 裕志（環境科学部長）	
3	14:30~14:50	静岡県における温暖化影響 ～避けられない気候変動にどう備えるか～	主査 神谷 貴文
4	14:50~15:10	廃棄物の有効利用で塗料排水をきれいに	主査 鈴木 光彰
	15:10~15:20	休憩	
		座長 植田 武治（大気水質部長）	
5	15:20~15:40	静岡県内の PM2.5 の現状について～地域性とその傾向～	主任 前田 友幸
6	15:40~16:00	静岡県内の水質環境の現状と保全への取組	班長 山内 悟
		座長 高橋 真（医薬食品部長）	
7	16:00~16:20	ツーンとする！わさびのはなし	技師 竹下 由布子
8	16:20~16:40	ジェネリック医薬品利用していますか？	主査 金子 亜由美
	16:40~16:45	閉会挨拶	副所長 前田 有美恵

## 平成 29 年度 静岡県環境衛生科学研究所 業務研究発表会の発表要旨

1	<p><b>これって本当に桜えび！？～科学技術がその正体を暴く～</b></p> <p>「桜えび」は静岡県のみで水揚げされる全国的にも有名な特産品です。近年、食品偽装事件が相次ぐ中、本県においても今年の3月に河津桜まつり会場にて「中国産アキアミ」を「駿河湾産桜えび」として販売した偽装事件がありました。本発表では、その偽装を見破るために当研究所にて実施した遺伝子解析検査について解説します。</p>
2	<p><b>インフルエンザ検査最前線</b></p> <p>毎年、冬から春にかけて流行する「インフルエンザ」。今年も、多くの学校で学級閉鎖が発生しました。インフルエンザの原因がウイルスであることが分かったのは1930年代ですが、1990年代以降に検査技術が急速に進歩しました。2017年現在、インフルエンザの検査は一体どのように行われているのか？本発表では、意外と知られていない（かもしれない）インフルエンザの検査方法と当研究所の取組を紹介します。</p>
3	<p><b>静岡県における温暖化影響 ～避けられない気候変動にどう備えるか～</b></p> <p>近年、地球温暖化の進行による気候変動の影響で、海面上昇や集中豪雨、農作物の不作や病害虫被害等が発生し、今後も被害の拡大が予想されることから、これらを防止・軽減する「適応策」が重要視されています。本発表では、本県における気候変動の現状や影響予測、適応策策定に向けた取組を紹介するとともに、当研究所で実施している外来種の分布拡大状況調査や南アルプスの積雪状況のモニタリングなど、温暖化影響を把握する試みについて報告します。</p>
4	<p><b>廃棄物の有効利用で塗料排水をきれいに</b></p> <p>揮発性有機化合物（VOC）の排出規制が施行されたことに伴い、塗装現場では油性塗料から水性塗料への切り替えが進んでいます。しかし、水性塗料道具等の洗浄に伴って発生する廃液の処理は、塗装事業者にとって大きな負担となっています。本発表では、廃棄物である安価なペーパーラッジ焼却灰（PS灰）とポリ塩化アルミニウム（PAC）を併用した低コストで簡便な水性塗料の排水処理法を見出したので報告します。</p>
5	<p><b>静岡県内のPM2.5の現状について～地域性とその傾向～</b></p> <p>PM2.5（微小粒子状物質）は、大気中に浮遊する小さな粒子のうち、粒子の大きさが<math>2.5\mu\text{m}</math>（<math>1\mu\text{m}=1\text{mm}</math>の千分の1）以下の非常に小さな粒子のことです。発生要因は、自動車排ガスをはじめ人の活動によるものや火山の噴煙など自然活動によるもの等様々であり、呼吸器系疾患など健康影響への懸念が指摘されています。今回、これまでに静岡県で調査したPM2.5データを分析したところ、その地域性に一定の傾向が見られたので報告します。</p>
6	<p><b>静岡県内の水質環境の現状と保全への取組</b></p> <p>静岡県には、豊かな河川や広大な沿岸域などさまざまな水環境があり、人の生活や産業と密接な関係にあります。こうした水環境には、維持することが望ましい基準として、環境基準が設定されています。大気水質部では、広く一般の人々が触れる公共利用水域の水質特性の把握やその変化を捉えるために、調査研究を行い水環境の保全と向上に取り組んでいます。今回は、調査結果から水質環境の現状と保全に対する取組を紹介します。</p>
7	<p><b>ツーンとする！わさびのはなし</b></p> <p>わさび栽培の発祥地が静岡市葵区の山間部であるといわれていることはご存知でしょうか？現在静岡県はわさびの生産額、栽培面積が日本一であり、わさびは本県を代表する重要な特産品となっています。本発表では、普段脇役になりがちなわさびに焦点をあてて、当研究所で分析を行っている辛味・香気成分「イソチオシアネート化合物」を中心に、わさびのアレコレを詳しくお話しします。</p>
8	<p><b>ジェネリック医薬品利用してますか？</b></p> <p>先発医薬品（新薬）と比べて安価なジェネリック医薬品の利用は、医療保険制度の維持や患者負担の軽減につながります。しかし、医療現場では効果や副作用が新薬と違うのではと心配する声があるため、国では新薬、ジェネリック医薬品の情報を収集し公表しています。静岡県ではジェネリック医薬品が新薬と同じように体内で溶けやすいかを確認する試験に協力しています。本発表では、その試験方法や試験事例について紹介します。</p>